

「翻訳こんにやくの夢」

『ニュータイプ』の韓国版が出るらしい。実に喜ばしいことだ。こういうことをぎっつけのひとつとして韓国と日本とが一層仲良くなれば、こんなうれしいことはない。さらに(僕にとって)うれしいことに、僕のこのコラムも韓国版に載せてもらえるとのことである。どなたかが韓国語に翻訳してくださいののだろうか。きっと大変なことだろうと思う。さて、これを機会に今回は翻訳の可能性について考えてみよう。韓国語は日本語とどちらかというと似ている言語だが、特に何語と何語の翻訳という話ではない。もつと一般的な話である。そして結論を先に言おうと、どんな言語だろうと「翻訳は不可能である」のだ。

最近では機械翻訳とかいってコンピューターが人間のかわりにだいたい翻訳してくれるようになった。語学が苦手な人はドラえもん「翻訳こんにやく」のような夢みたいな機械がいつか現れることを待っているかもしれない。しかし、残念ながら「翻訳こんにやく」はゼツタイに現れないのだ。

データメを言うな、翻訳書はたくさん本屋にならんでいるし、外国の映画だつて字幕や吹き替えで見られるじゃないか、という声が聞こえてきそう。じゃ、もう少し正確に言おう。ことばには翻訳しやすいこととゼツタイに翻訳できないことがあるのである。

翻訳しやすいことの代表は、目で見てわかることや「科学的」なことだ。「1と1を足すと2になる」という文はたぶんどの言語にも翻訳しやすい。「犬には足が4本ある」も翻訳しやすい。犬を見たことのない国の人がいれば、実物の犬を見せてあげればよい。

ところが、ゼツタイに訳せないことや無理に訳すとんでもないことになるこ

とばが実はいつぱい、しかも身近にある。簡単な例で考えてみよう。英語の「you」ということばはどうだろう。そんなの簡単!「you」は「あなた」だ!と思う人もいるか

もしれない。でもそうはいかない。例えば目上の人に対しては、「あなた」、「君」、「おまえ」のどれをとつても使えない(か、使つたらひつぱたかれる)。一方英語の「you」は相手が子どもだろうが、大統領だろうが誰でも問題なく使える。

「いただきます」、「ごちそうさま」、「よろしく」などと言わない言語(あるいは国)はたくさんある。そんなことばも言う習慣もない国では、いくら翻訳したつてムダだ。何の意味もないし、理解もされない。

僕たちは辞書があるがために、ことばは何でも別の言語に置き換えられると思つて、ところが、どういう場合にどういうふうに使われるかということまで考えると、置き換えられない(翻訳できない)ことばはたくさんあるのである。つまり、僕たちのまわりの翻訳はみな「できるだけ近い」翻訳か、日本風にアレンジしたことばなのだ。

「しましまにしまっしま!」つて翻訳できるかな?

illustrated by MIYATA NAOMI

